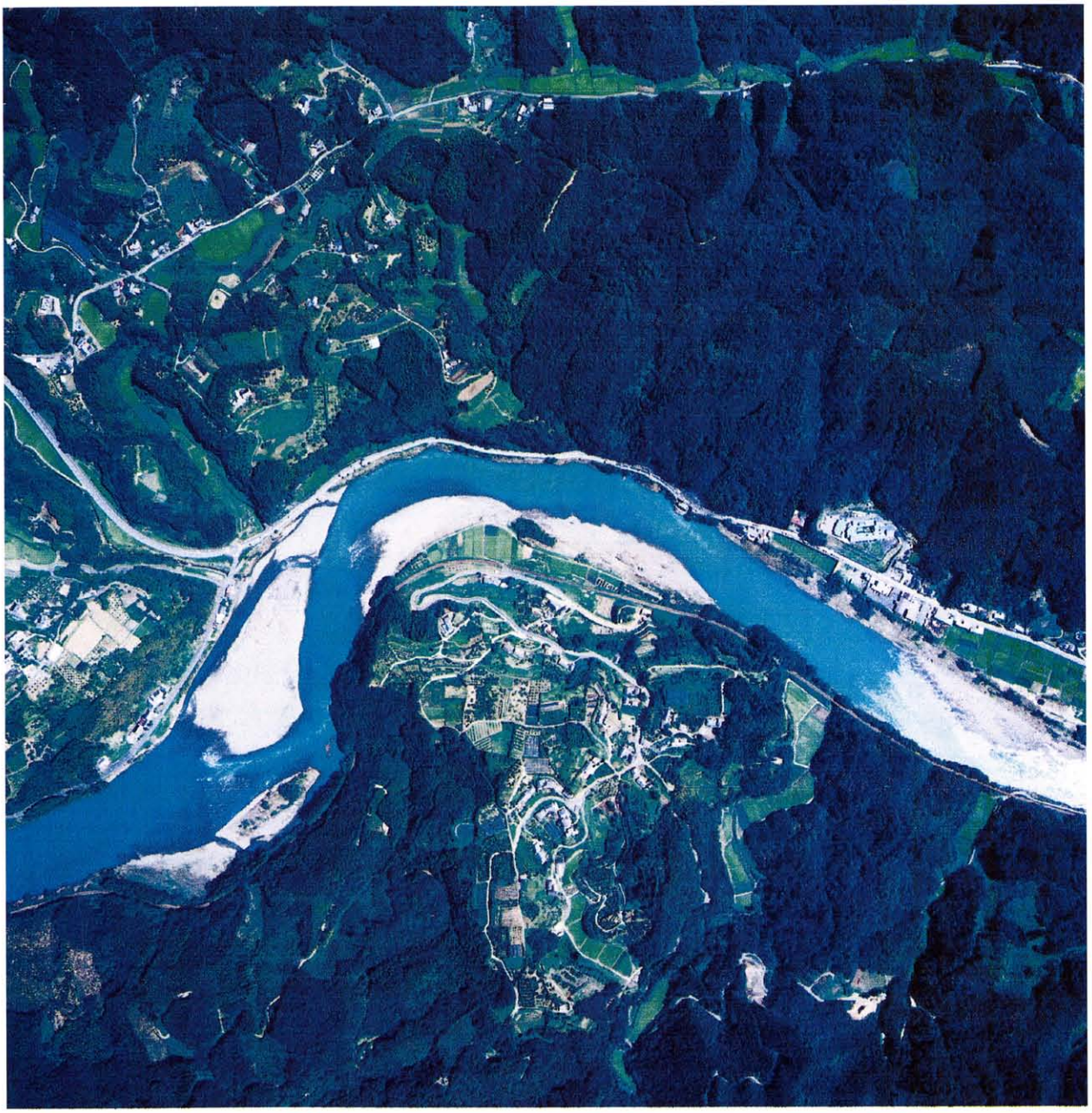
北方町文化財報告書第25集

上崎地区遺跡5

平成16年度 上崎地区農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財調査概要報告書

2005年3月

宮崎県東臼杵郡北方町教育委員会



上崎遺跡周辺航空写真

序

日頃より埋蔵文化財の保護、活用に関しましては深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

北方町教育委員会では、今年度も東臼杵農林振興局の委託を受けて、上崎地区内に所在する埋蔵文化財調査を実施しました。本書は、その報告書です。

本書の刊行を通しまして、地域の文化財に対する理解と認識が、ますます深まっていくことを願うとともに、今回の成果が社会教育・学校教育等で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、本事業の推進にあたってご協力をいただきました町民の皆様をはじめ、ご指導ご助言をいただきました宮崎県教育委員会文化課、東臼杵農林振興局・上崎区など関係機関の皆様に対し、こころより感謝申し上げます。

平成１７年３月３１日

北方町教育委員会

教育長　　中　利幸

例　　言

1．本書は、北方町教育委員会が東臼杵農林振興局の委託を受けて、平成１６年７月３０日から平成１７年２月２５日まで実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2．調査は、北方町教育委員会が主体となり、同文化財係長小野信彦が担当した。
3．調査の組織
調査の組織は、以下の通りである。

調査主体	北方町教育委員会	教　育　長	中　利幸
調査総括		社会教育課長	甲斐淳一
事務担当		社会教育課長補佐	甲斐克則
調査担当		文化財係長	小野信彦
調査指導	宮崎県文化課		

調査協力（順不同）
宮崎県東臼杵農林振興局農地整備課、宮崎県埋蔵文化財センター、宮崎県総合博物館、宮崎県立西都原考古博物館、宮崎県市町村埋蔵文化財担当者、農地保全整備事業上崎地区推進協議会及び地元関係各位
4．本書の編集は、小野が行った。
5．本書で使用した写真・図面については北方町教育委員会で保管している。

目　　次

Ⅰ　はじめに・・・

はじめに

１．調査に至る経緯

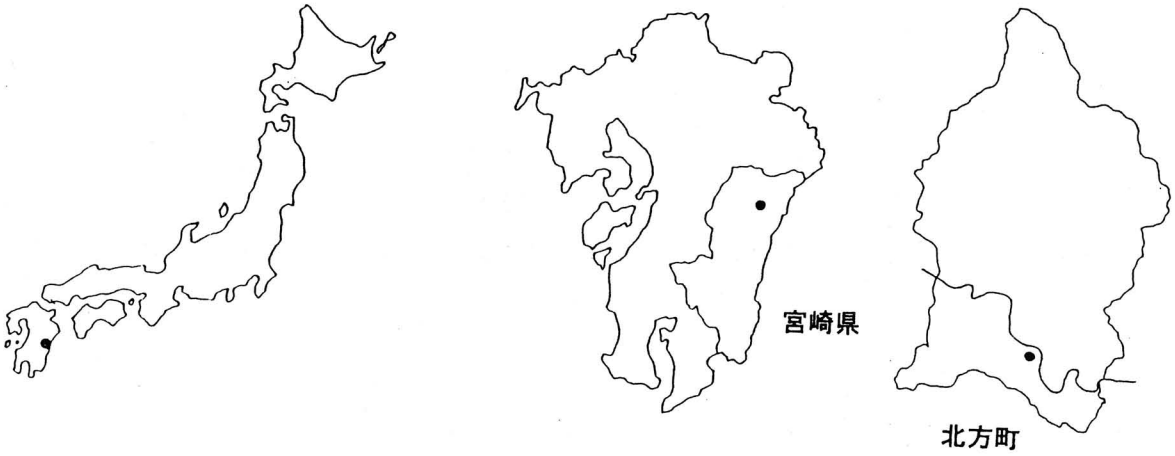
宮崎県東臼杵農林振興局では、平成１６年度に引き続き本年度も、上崎地区において、農地浸食防止工事としての農地保全整備事業を計画し、北方町教育委員会に工事予定地内の埋蔵文化財の有無についての照会を行った。

工事予定地内については、昨年度の調査地に隣接し、周知の埋蔵文化財包蔵地であったために、記録保存のための埋蔵文化財調査を実施することとなった。

調査は、宮崎県東臼杵農林振興局の委託を受け、北方町教育委員会が主体となって、平成１７年７月３０日より平成１７年２月２５日まで実施した。

なお、今年度は現地調査を優先し、整理作業及び本報告書の作成は、平成１７年度以降に実施することになった。

１．　上崎地区遺跡遠景（東から）



1．早日渡馬場園遺跡　2．小原遺跡　3．矢野原・矢野原第２遺跡
4．蔵田遺跡　5．蔵田城　6．駄小屋殿の上遺跡　7．上崎地区遺跡

２．遺跡位置図（1/25,000）

２．遺跡の位置と歴史的環境

上崎地区遺跡は、北方町辰（上崎）で行なわれている農地保全整備事業に伴って発掘調査された遺跡の総称である。

本遺跡が所在する北方町は、宮崎県の北に位置し、東は延岡市、南は門川町・北郷村、西は西臼杵郡日之影町、北は北川町の１市３町１村と境を接する。町の南部を東西15km、南北23km余りの町域を占めて五ヶ瀬川が流れる。北には1,000m級の大崩山・鬼の目山などの山々が連なる。南部の五ヶ瀬川流域や曽木川流域には、阿蘇溶結凝灰岩の台地や河岸段丘が発達しており、本町の遺跡の大部分が集中する。

周辺の遺跡について概観する。旧石器時代では、五ヶ瀬川を挟んだ対岸上流の矢野原遺跡で、ＡＴ層上位より礫群の外、ナイフ形石器や剥片尖頭器を含め約3,000点にも及ぶ遺物が出土している。また、ＡＴ層下位では、数点のスクレイパー類と剥片類が出土している。石材は水晶、流紋岩、砂岩等である。矢野原第２遺跡でも、ＡＴ層上下よりナイフ形石器やスクレイパー等が出土している。

縄文時代では、矢野原遺跡・矢野原第２遺跡で草創期から手向山式直前までが充実しており、小原遺跡で早期押型文土器等が採集されている。蔵田遺跡では、早・後・晩期の出土例が多い。遺構では、礫群・集石遺構等が検出されている。

弥生時代から古墳時代にかけては、小原遺跡で弥生土器や須恵器の破片が採集されている。早日渡馬場園遺跡では、弥生時代終末期から古墳時代初頭期にかけての竪穴住居跡が２軒検出されている。また、蔵田遺跡では古墳時代の竪穴住居跡が１軒検出され、東側の一角で磨製石鏃の未製品を45個ほど検出し、工房の可能性が指摘されている。駄小屋殿の上遺跡では、古墳時代後期の石棺が数基検出されている。矢野原第２遺跡では、古墳時代後期の石棺が７基検出され、そのうち１基からは、鉄刀と鉄鏃が各１点ずつ出土している。

古代については、出土遺物が少なく、詳細は不明である。

中世になると、早日渡馬場園遺跡・蔵田遺跡で陶磁器、明銭、石臼等が出土している。蔵田城は、中世山城であり、郭・空掘等の施設が良好な状態で残っている。

〈参考文献〉

（１）　角川書店『角川日本地名辞典』45(1986)

（２）　北方町『北方町史』(1972)

（３）　田中茂『東臼杵郡北方村の古墳』北方村教育委員会

（４）　北方町教育委員会「笠下遺跡」『北方町文化財報告書』１(1990)

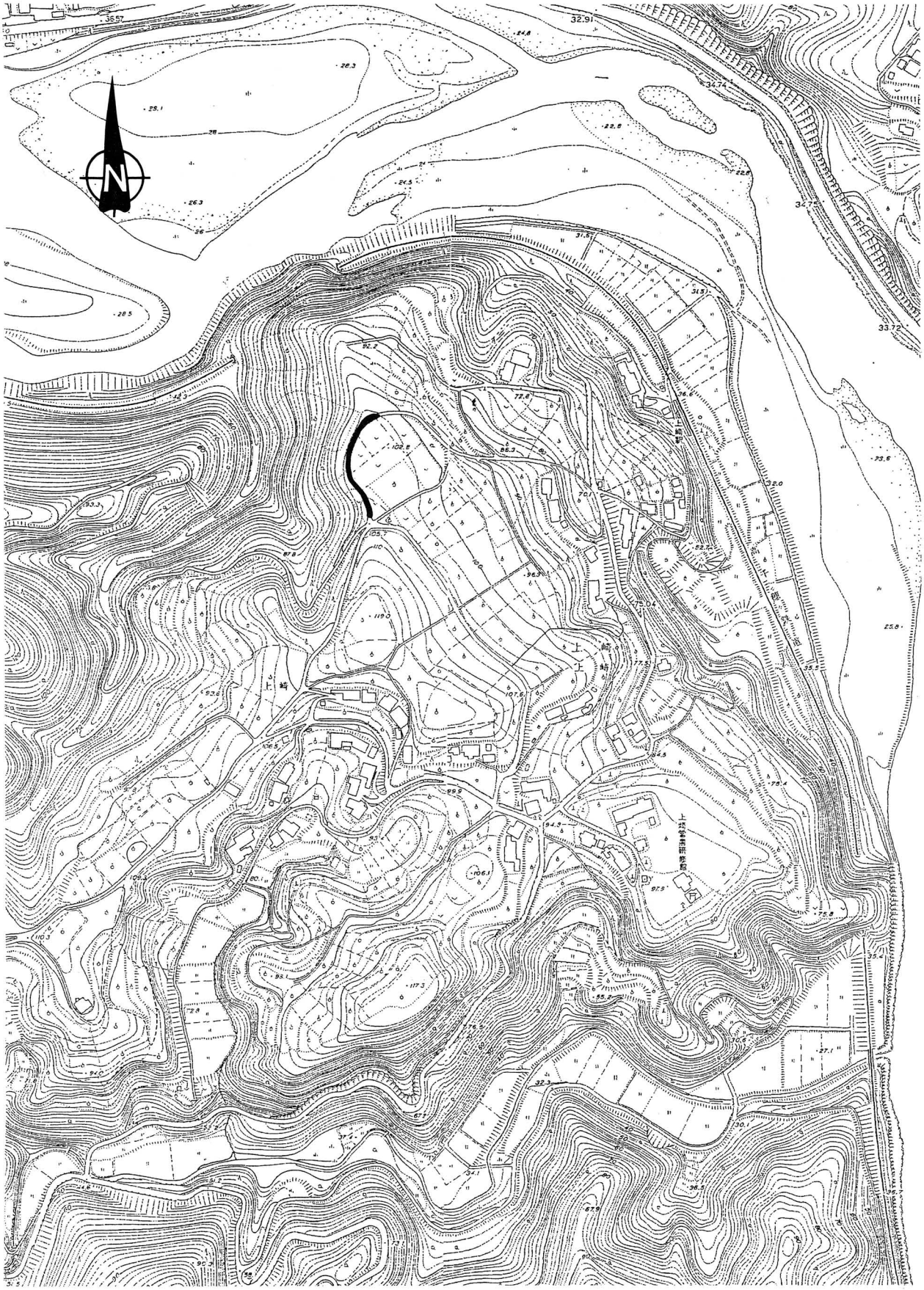
（５）　宮崎県教育委員会『打扇遺跡・早日渡遺跡・矢野原遺跡・蔵田遺跡』(1995)

（６）　平凡社『日本歴史地名大系』46(1997)

（７）　北方町『北方町史第２巻』(1997)

（８）　宮崎県教育委員会『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅰ』(1998)

（９）　宮崎県教育委員会『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅱ』(1999)



3．調査区位置図（1／5,000）

調　査　の　内　容

１．調査の概要

本遺跡は、標高約１５０ｍ～１６０ｍ程の通称「原」と呼ばれる台地上に位置し、五ヶ瀬川からの比高差は６０～８０ｍである。

これまでの発掘調査で、旧石器時代から近世にかけての遺物・遺構が検出されてきた。

今年度の調査区は、昨年調査した１区内の道路部分である。調査区に隣接する農地での作業との調整のため調査区を半分に分け、先に北側を調査したあとに一度埋戻しを行って農作業道を復旧し、南側の調査を行った。調査区のほとんどは道路工事に伴う削平が行われ、一部はＶ層上面にまで及んでいる。堆積状況が良好なところではアカホヤ層が確認され、上部で弥生時代から古墳時代の竪穴住居跡を１軒、下部で縄文時代早期の集石遺構を５基検出した。縄文時代晩期の土坑１基は、工期と農作用車両の通行の調整がうまくいかずに調査ができなかった区間で、工事中に発見したものである。

また、旧石器時代の包含層より剥片が若干出土した。一部を掘り下げたが、遺物の出土はなかった。

２．基本層序

基本層序は以下の通りである。

Ⅰ層…表土層（約20㎝）

Ⅱ層…茶褐色土層（約20㎝）

Ⅲ層…黒色土層。パサつく。（約30㎝）上部より主に縄文時代晩期の遺物や須恵器、陶磁器等の遺物が出土。ほとんどの調査区で、削平されている。

Ⅳ層…アカホヤ層（約20㎝）

Ⅴ層…黒褐色土層（約20㎝）やや粘質。縄文時代早期の遺構と遺物を検出。

Ⅵ層…黄褐色土層（約20㎝）粘質。旧石器時代の遺物が若干出土。

Ⅶ層…ＡＴ層（約10㎝）

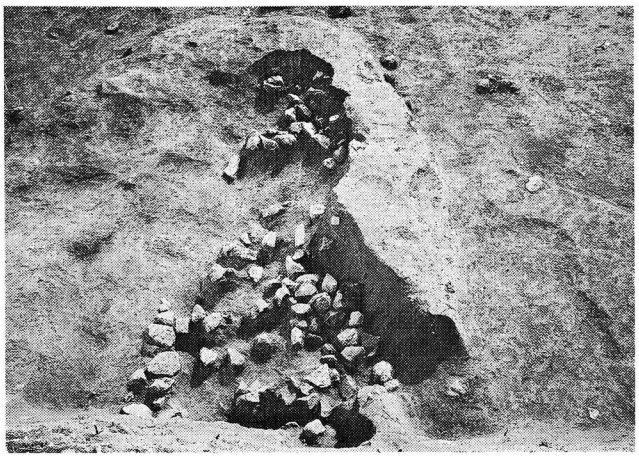
Ⅷ層…黒褐色土層（約20㎝～50㎝）やや粘質。
３～５㎝のブロック状。

Ⅸ層…黄茶褐色土層。粘質。小砂利を含む。

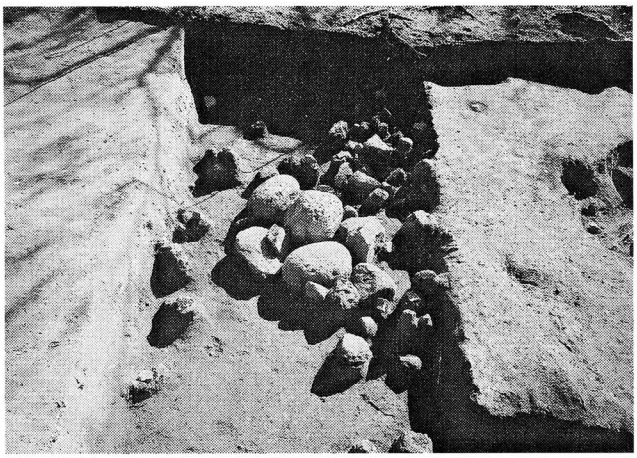
Ⅹ層…阿蘇溶結凝灰岩層。岩盤。

４．１号土坑（縄文時代晩期）
検出状況

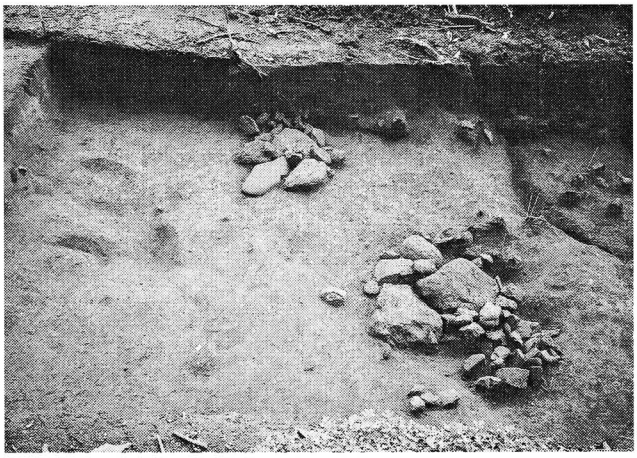
5．1号集石遺構



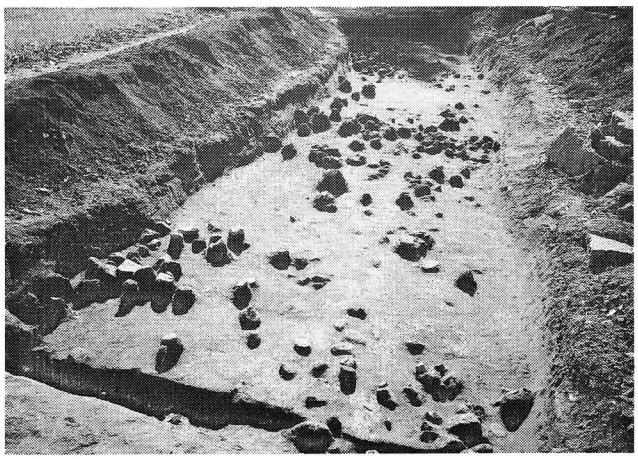
6．2号集石遺構



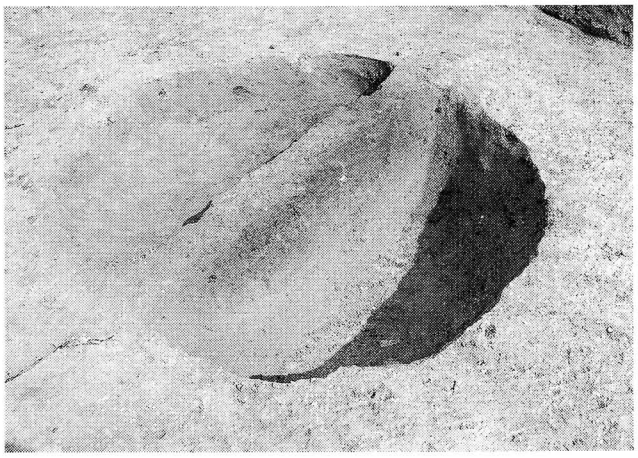
7．3号集石遺構



8．4号集石遺構



9．縄文時代早期遺物出土状況



10．1号土坑

３．遺構・遺物

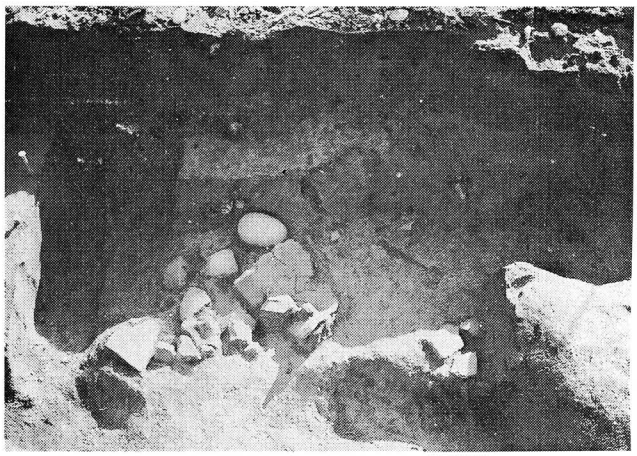
道路による削平が、Ⅳ層（アカホヤ層）の上部からⅤ層上面までおよんでいる。検出遺構としては縄文時代早期の集石遺構５基、縄文時代晩期の土坑１基、弥生時代終末期から古墳時代初頭期の竪穴住居跡１軒、時期不明の溝状遺構１基である。

遺物のほとんどは、主にかろうじて削平を免れたⅤ層中より出土し、旧石器時代遺物包含層であるべきⅥ層の遺物は少ない。一部掘り下げたが、ＡＴ層の確認はできず、出土遺物も無かった。詳細は、整理作業を行っていないので不明である。

集石遺構は５基検出した。いずれもアカホヤ層下位での検出で、１号集石遺構は、一部調査区外へ広がる。検出状況から円形の掘り込みを有するタイプと考えられる。敷石は認められない。２号集石遺構は、不定形で浅い掘り込みを有する。２基の集石遺構が、連結したものかとも思われるが、掘り込みでは確認できなかった。３～５号集石遺構は、近接して検出した。３号集石遺構は、川原石をそのまま据えたものである。川原石はいずれも焼けている。掘り込みは、認められない。４・５号集石遺構には、敷石が認められる。

竪穴住居跡は、1軒を検出したが、一部は調査区外に広がっており全面調査はできなかった。また、木の根によりかなりの範囲にわたって撹乱を受けている。このため規模等は推測になるが、一辺が３～４mの方形の竪穴住居跡と思われる。深さは検出面から約20cm、床面は平坦で、浅くくぼむ焼土坑及び炭集中部を検出した。炭化材も出土している。出土遺物から弥生時代終末期から古墳時代初頭期と思われる。

11．1号竪穴住居跡



12．住居跡内遺物出土状況

お　わ　り　に

平成１６年度の調査で、検出された遺構は、縄文時代早期の集石遺構５基と晩期の土坑１基、及び弥生時代終末期から古墳時代初頭期の竪穴住居跡である。遺物は、旧石器時代の剥片、縄文時代の石鏃、打製・磨製石斧、石錘、土師器、陶磁器などが出土している。整理作業を次年度以降に予定しているため、遺構・遺物についての詳細については、本報告で行う。

旧石器時代の遺物は主にⅥ層中及び縄文時代早期の遺物と一緒に数点出土している。ＡＴ層は確認できなかった。対岸の蔵田遺跡や矢野原遺跡の堆積状況などから、周辺には良好な包蔵地が予想される。

縄文時代では、アカホヤ層をはさんで遺構や遺物が検出された。集石遺構は５基検出したが、うち３基が近接する。１基は敷石を有し、もう１基は焼けた人頭大の川原石を配したものである。明確な掘り込みプランは確認できなかった。今後、類似事例との比較検討を行いながら、性格等を把握していきたい。また、２基の集石遺構が連結すると思われる遺構を検出したが、掘り込み面での確認はできなかった。北へ傾斜する台地の端部でも１基検出された。周辺部を含めて、その対応には十分な注意が必要である。

当地域における、古墳時代の住居跡の発見例は、これまでの調査及び町開発事業に伴う調査で７軒検出し、着実にその事例を増やしつつある。対岸の蔵田遺跡や矢野原遺跡、上流に位置する速日峰地区遺跡など周辺地域では
、急傾斜や狭小な痩尾根の端部で住居跡が発見されている。今後の調査にも期待したい

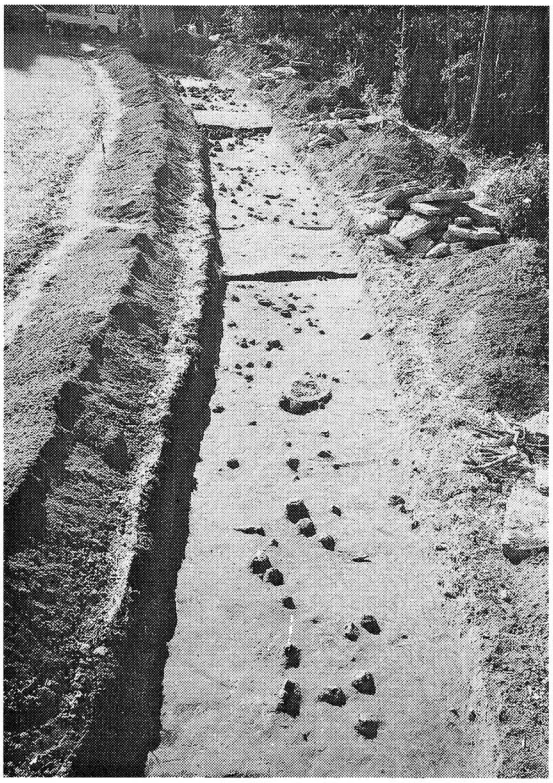
これまでの埋蔵文化財調査により、地元をはじめとする多くの町民に雇用の場を提供してきました。また、考古学的な成果はもちろんですが、農地保全整備事業の実施と文化財保護の調整を通じて、発掘調査や埋蔵文化財への理解が増してきたように思います。

一般的には、まだまだ発掘調査作業ですが、本書を通して、非常に地道で根気がいる大切な作業を、さらにご理解いただく一助となれば幸いです。

参考文献

1995年　宮崎県教育委員会『打扇遺跡・早日渡遺跡・矢野原遺跡・蔵田遺跡
…一般国道218号線椎畑バイパス建設に伴う埋蔵文化財報告書…』

2003年　北方町教育委員会『速日峰地区遺跡』



12．調査区近景（南側）

13．調査区近景（中央部）

14．調査区近景（北側）

15．作業状況

報　告　書　抄　録

フリガナ	カミザキチクイセキ
書名	上崎地区遺跡５
副書名	上崎地区県営農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財調査概要報告書
巻　　次	
シリーズ名	北方町文化財報告書
シリーズ番号	第２５集
編集者名	小野信彦
編集機関	北方町教育委員会
所在地	宮崎県東臼杵郡北方町卯６８２番地
発行年月日	平成１７年３月３１日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北　緯	東　経	調査期間	調査面積 （㎡　）	調査原因
上崎地区 遺跡	東臼杵郡 北方町辰	45426				2004. 7. 30～ 2005. 3. 25	835	県営農地保全 整備事業

所収遺跡名	種　　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上崎地区 遺跡	包蔵地	旧石器時代 縄文時代早期 縄文時代晩期 古墳時代前期	集石遺構５ 竪穴住居跡１ 土坑１	石鏃 縄文土器 土師器 陶磁器	縄文時代早期の川原石使用の集石遺構 （性格等は今後の課題）